



道内医療機関では、他院に先駆けて導入した最新式3D乳房超音波装置。早期乳がんをより多く発見できると、同院では期待している

乳がん検診

小笠原クリニック札幌病院附属 外来プラザ

綿密な乳がん検診で早期発見。
乳腺専門医が検診から手術・薬物療法まで実践

若い女性にはマンモグラフィと 超音波検査の併用が有効

毎年新たに乳がんが見つかる日本人女性は1975年1万人、85年2万人、95年3万人、2010年6万人と増え続け、15年には約9万人になりました。現在、日本人女性に最も多い「がん」は乳がんであり、日本人女性の12人に1人が乳がんになることがわかっています。

乳がんは早期発見されれば、ほとんどの場合命を失わない病気です。そして、早期発見するための唯一の手段が「乳がん検診」であり、マンモグラフィは触診ではわからないような早期乳がんを発見します。

マンモグラフィは小さな病変の発見に力を発揮します。しかし、30〜40歳代の若い女性の場合には豊富な乳腺組織が邪魔をしてマンモグラフィに乳がんのしこりが写らないことがあります。若い女性の乳がんを見逃さないために、日本では40歳代女性を対象にして「マンモグラフィ検診に超音波検査（エコー検査）を組み合わせる研究（J・START）」が行われています。15年11月には「マンモグラフィと超音波検査を併用すれば、マンモグラフィだけの検診よりも多くの早期乳がんを発見できる」という研究結果が発表されました。つまり、マンモグラフィに写らない若い女性の早期乳がんを発見するには乳房超音波検査がとても有効なのです。

小笠原クリニック札幌病院附属外来プラザでは、精密検査用に最新式の3D乳房超音波装置を道内で初めて導入しました。従来型の超音波装置は、主にしこりの1断面（2D）をみて診断するため、乳がんも良性のしこりの区別が難しい場合があります。しかし、3D超音波装置はしこりの表側、裏側、内部のあらゆる断面（3D）

を組み合わせて観察できるので、1断面で良性と思われる他の断面から乳がんを診断できる可能性が高まります。さらに、乳房の正面、内側、外側を機械が自動的に動いて検査するため、死角がほとんどありません。マンモグラフィに写らず、超音波検査だけで見つかるしこりは良性のしこりも含めると数多くありますが、3D乳腺超音波装置を用いれば乳がんの選別がしやすくなります。ただし、マンモグラフィで見つけられないタイプの乳がんもあるので、乳がん検診においてはマンモグラフィと超音波検査の併用が望まれます。



田口 和典氏

院長

北大医学部講師、北海道がんセンター-乳腺外科科長、天使病院乳腺外科科長などを経て、2015年4月より現職。日本乳癌学会乳腺指導医・乳腺専門医、医学博士

【小笠原クリニック札幌病院附属外来プラザ】

札幌市南区真駒内上町1丁目1-25

グリーンプラザ真駒内公園ビル1〜4階

Tel.011-582-1200

<http://www.ogawara-hp.or.jp/gairai/>

gairai/nyusen.html